

《課題名》

肺活量が全弓部置換術施行後の成績に与える影響

《研究対象者》

2004年1月1日から2016年12月31日までに滋賀医科大学付属病院心臓血管外科において「全弓部置換術」を施行された方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただきず、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

研究課題名：肺活量が全弓部置換術施行後の成績に与える影響

研究期間：滋賀医科大学長承認日（2018年01月07日）～2022年12月31日

研究機関・実施責任者：滋賀医科大学心臓血管外科 鈴木友彰

患者さんの情報を扱うもの：鉢呂康平、木下武、榎本匡秀、近藤康生、宮下史寛、脇坂穂高、浅井徹

情報の管理責任者：鈴木友彰

（２）研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

全弓部置換術では術前の一秒率（呼吸機能検査の項目の1つで、息を努力して吐き出した時に呼出される空気量のうち最初の一秒間に吐き出された量の割合）が低いことが術後の予後危険因子とされていますが、肺活量（息を最大限吸い込んだ後に吐き出される空気量）が術後にどのような影響を与えるかははっきりしていません。今回の研究では術前の肺活量と術後の遠隔死亡との関連を調べます。肺活量が低いことが術後の遠隔死亡に影響を与えることがわかれば、全弓部置換術の危険因子として新たに認識することができ、手術を行う前に呼吸機能を改善させる治療を行うべきであるということにつながる可能性があります。

（３）研究の方法について

《研究の方法》

当院で管理している電子カルテから患者さんの術前の年齢・性別・BSA・喫煙歴・一秒率・肺活量・腎機能・透析の有無・高血圧の有無・脂質異常症の有無・糖尿病の有無、術中の手術時間・人工心肺時間・最低温度、術後の縦隔炎・脳梗塞・肺炎・腎不全・遠隔死亡などを調べ、統計学的処理を行います。

（４）個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

御本人のデータを本研究に用いることについて、停止を求められる場合には随時下記(8)にご連絡ください。ただし、研究データが固定された後に利用停止のお申し出を受けた場合には、ご本人のデータのみを消去することは困難となりますので、データの全部あるいは一部を本研究に使用させて頂くこととなります。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学心臓血管外科 鉢呂康平

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2244

メールアドレス：hqsurge2@belle.shiga-med.ac.jp